

第2章 北上市の地域特性

第1節 自然特性

1 位置・地勢

北上市は、岩手県の南西部、北上平野の中ほどに位置し、東西 38km、南北 34km で総面積 437.55km² の市域を有しています。

東部には北上高地、西部には奥羽山脈が連なり、夏油温泉周辺は栗駒国定公園の一部となっているなど、緑豊かな自然に囲まれています。

両山地の中間に広がる平野部では、市域を南流する北上川に秋田県境付近から東に流れる和賀川が合流し、豊かな水源と肥沃な土壌に恵まれた田園地帯と市街地及び工業団地が開けています。

標高は、平野部で約 50～200m、東部の丘陵地では約 200～400m、西部の丘陵地では約 290～1300m となっています。

2 地形・地質

本市の地形・地質は、中央部の北上平野、東部の北上高地及び西部の奥羽山脈とで特徴づけられます。

中央部の北上平野は、北上川及び和賀川流域の自然堤防とその周辺の北上川低地や和賀川低地の南北に位置する尻平川扇状地及び夏油川扇状地からなり、砂・礫・泥またはロームの段丘堆積物や扇状地堆積物が広く分布しています。

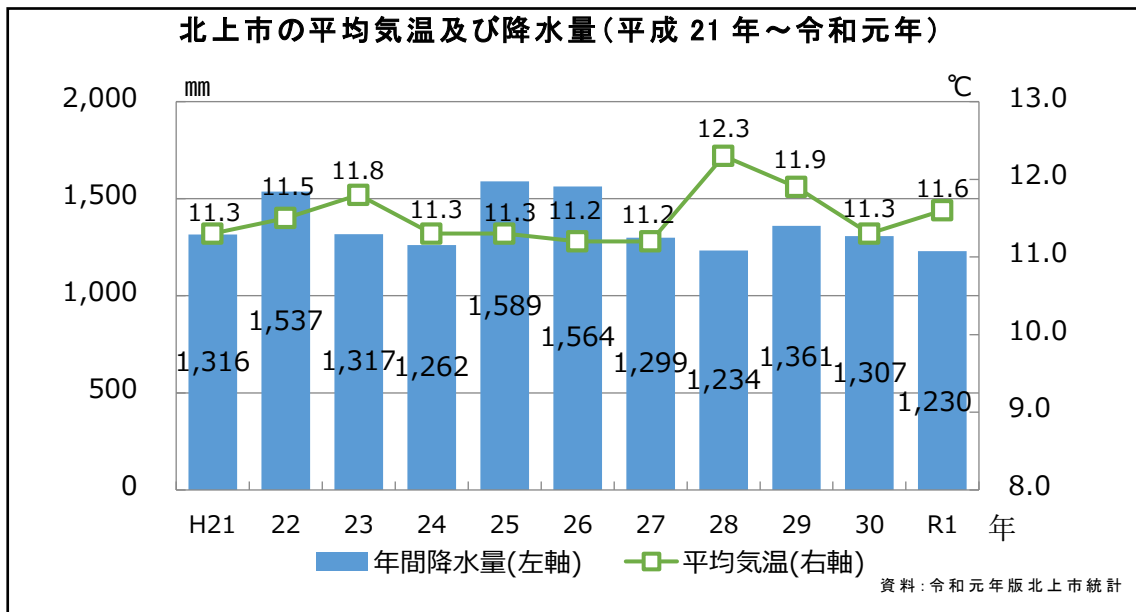
東側の北上高地は、小起伏山地とその南に大起伏丘陵地が広がり、集塊岩及び凝灰角礫岩が広く分布しているほか、所々に砂礫・砂岩・泥岩・珪岩質岩石の互層がみられます。

また、西側の奥羽山脈は、大起伏山地、中起伏山地や火山性の中起伏火山地からなる陰しく起伏の大きい山地となっており、集塊岩及び凝灰角礫岩が広く分布しているほか、凝灰石・凝灰角礫岩・シルト岩・泥岩・礫岩の互層などの固結堆積物が東縁部に沿って分布しています。

3 気候

本市の気候は、東日本の太平洋側の気候区に属しており、奥羽山脈と北上高地に挟まれ、気温の日較差や年較差が大きいなど、内陸性気候の特徴を呈しています。

また、日本海側の気候の影響も受けやすく、冬季は積雪量も比較的多い地域となっています。

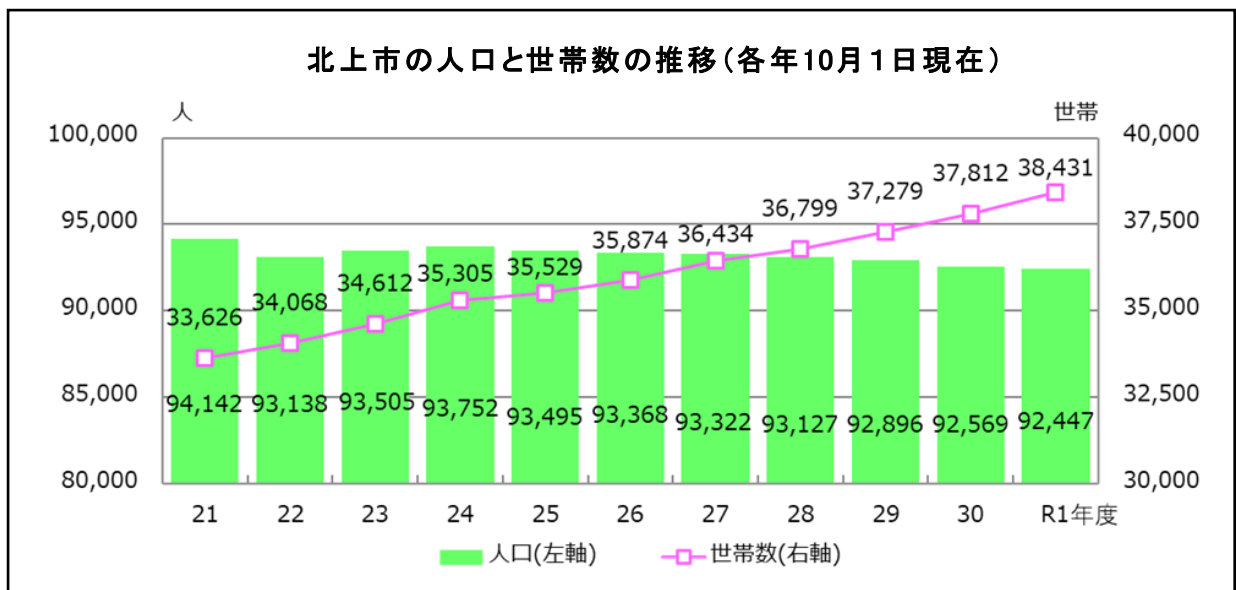


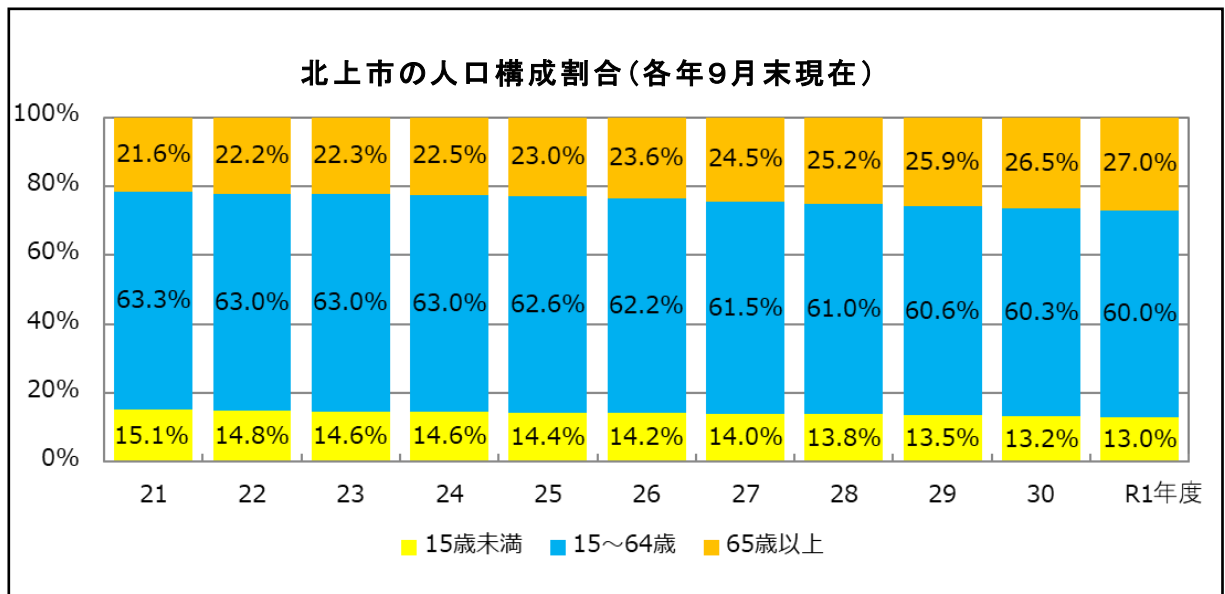
第2節 社会特性

1 人口・世帯数

本市の人口は、令和元（2019）年10月1日時点で92,447人、世帯数は38,431世帯で、県内第5位の人口規模となっています。

人口構成の推移を見ると、年少人口（0～14歳）の減少と高齢者人口（65歳以上）の増加により、少子高齢化が進行していることが伺えます。





2 土地利用

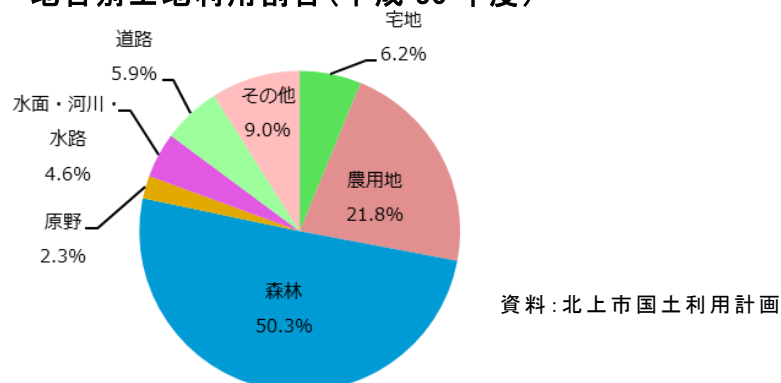
本市の土地利用の状況は、市域（総面積437.55km²）の約半分（50.3%）を森林が占め、約2割が農地（21.8%）となっています。

市街地は国道4号に沿って南北に伸び、西部の平坦部や東部の丘陵地帯には農業集落が形成されています。

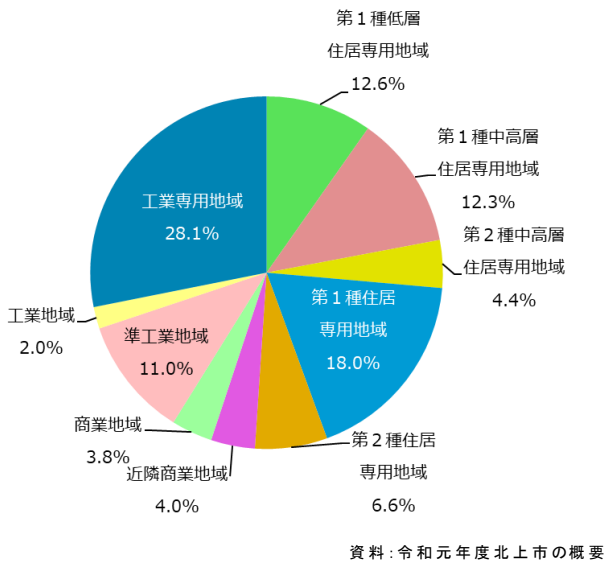
市内各所には北上工業団地をはじめとした工業団地が整備されており、住居系、農業系、工業系の土地利用が近接、混在しています。

また、令和元年度現在、市域の約6割が都市計画区域で、うち用途地域が2,307haとなっています。用途地域の内訳としては、51.1%が住居系用途となっています。また、令和元（2019）年度現在、市域の約5割が農業振興地域として指定されており、うち農用地区域が8,251ha、農振白地区域が14,604haとなっています。市の中心市街地では空き店舗が目立つなど空洞化が見られる一方で、郊外では大規模小売店の進出等により市街化が進み、自然環境の破壊や農地の減少などが懸念されており、適切な規制・誘導による計画的な土地利用が求められます。

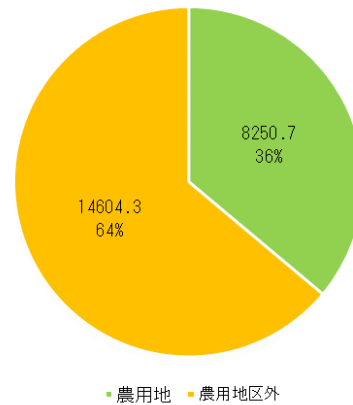
地目別土地利用割合（平成30年度）



都市計画用途区域割合（令和元年度）



農業振興地域割合（令和元年度）



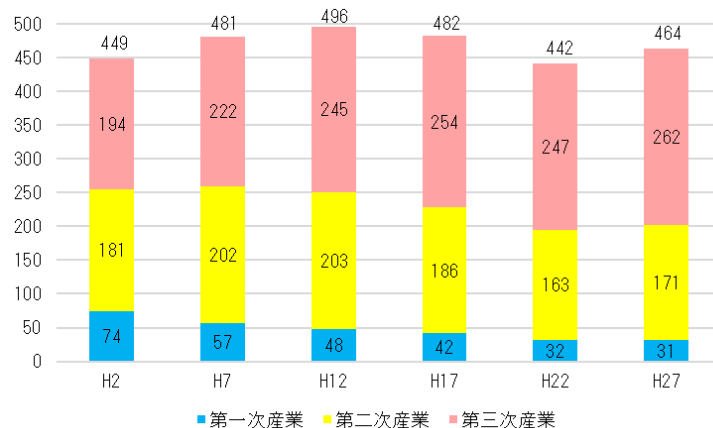
3 産業

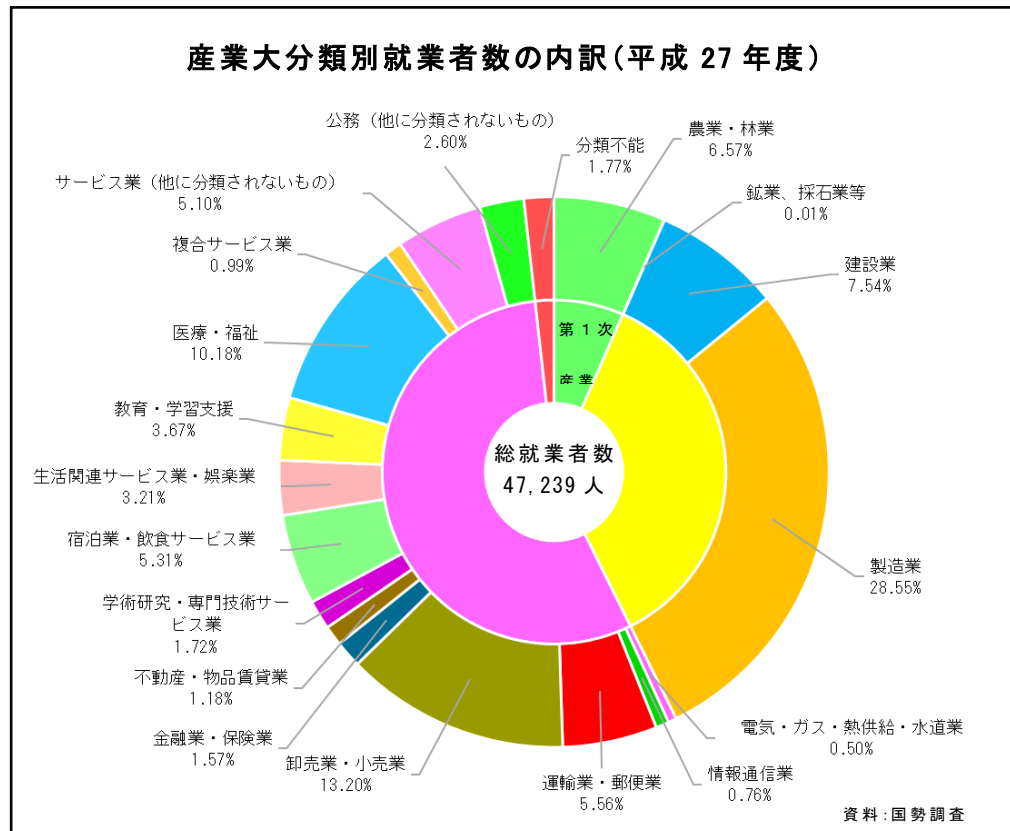
就業者の総数は、平成12（2000）年の国勢調査までは増加傾向で推移してきましたが、平成17（2005）年の国勢調査では減少に転じました。その後、平成27（2015）年度の国勢調査で再び増加に転じました。

産業3部門別の就業者数は、第3次産業の比率が最も高く56.5%、ついで第2次産業が36.9%、第1次産業が6.7%となっており、第3次産業の比率が増大する一方で第1次産業の比率が減少を続けています。

また、産業大分類別でみると、製造業の就業者比率が28.55%で、岩手県全体の比率（15.8%）に比べると高く、工業都市である本市の大きな特徴となっています。

産業別就業者数





4 交通

本市は、古くから交通の要衝として栄えてきた地域です。国道4号及びJ R東北本線が市域を南北に貫き、国道107号、J R北上線が東西に走っています。

さらに、東北新幹線（昭和57（1982）年開業）、東北縦貫自動車道（昭和52（1977）年開通）や東北横断自動車道釜石秋田線（平成9（1997）年開通）など高速交通体系が整備され「北東北の十字路」となっています。

